

さわやかに新春の片岡路を駆け抜ける

1月19日(日)、矢板南産業団地で「第42回片岡地区コミュニティ新春マラソン大会」が開催され、青空のもと約420人の参加者が健脚を競いました。ゲストランナーには、プロバスケットボールチームの「宇都宮ブレックス」の選手やチアリーダーが参加し大会に華を添えたほか、市婦人会片岡支部の方からとん汁が振る舞われ、湯気の上がる鍋の前にはたくさんの方が行列を作りました。

小学4年男子・深井さん、小学6年女子・渡邊さん、中学3年女子・兼子さん、一般男子・大澤さん、家族マラソン・滝さん親子が見事大会連覇を果たしました。



種目	氏名
小学生1・2年	男子 鈴木 善 (さくら市南小2年)
	女子 村松 優衣 (東小2年)
小学生3・4年	男子 深井 真生 (乙畑小4年)
	女子 齋藤 美夢 (東小4年)
小学生5・6年	男子 疋田 知希 (宇大付小6年)
	女子 渡邊 芹菜 (東小6年)
中学生	男子 渡邊 栄翔 (矢板中2年)
	女子 兼子 咲楽 (矢東高附中3年)
一般	男子 大澤 瑠海 (那須拓陽高)
	女子 黒川 芳恵 (宇都宮市)
家族マラソン	滝 心裕・清登 (さくら市)

1/26 (日) 踏み出す勇気を大切に

片岡公民館で、41回目となる「コミュニティ新春講演会」が開催され、プロボウラーで声優としても活躍している渡辺あきさんが「渡辺あきのしくじり先生」と題し講演を行いました。講演の中では、プロになるまでの道のりやプロになってからの試練などについて話したほか、参加者を交えた声優ワークショップも行われました。

渡辺さんは講演の中で「1歩踏み出す勇気を持って行動すれば、自分の目標や夢に近づく。チャレンジすることを恐れずに進んでほしい」と参加者に力強く話していました。



◀プロボウラーや声優のほか「やいた応援大使」や県歯科医師会「歯と口腔の健口大使」として幅広く活躍をされているあきさんは、昨年7月「中日杯2019 東海オープンボウリングトーナメント」で念願の公式戦初優勝を果たしました。

1/28 (火) 旬のイチゴを味わって

市役所で、JA しおのや稲澤代表理事組合長から、市内で生産されたイチゴの贈呈を受けました。これは、栃木県の特産品である「イチゴ」を県内の小・中学校給食に提供することで、子どもたちの食への関心を高め農業の役割を理解してもらうことを目的に、JA グループ栃木が一体となって取り組んでいるものです。

稲澤組合長は「自然災害や天候不順でイチゴの生育が心配されたが、農家の方の努力でそれを乗り越えイチゴを子どもたちに届けることができた」と話されました。



▲(左から)
【JA しおのや】
・稲澤代表理事組合長
・黒崎常務理事
【矢板市】
・横塚副市長
・齋藤市長

1/18 (土) ツツジ咲き誇れ

北関東でも有数のツツジの名所である長峰公園のツツジを守るため、薬除活動ボランティアが行われました。この活動は、公園を訪れた方たちにきれいな花を楽しんでもらおうと市観光協会が毎年実施しているもので、この日は約30の方が参加し、薬除のほか根本に肥料をまきツツジの手入れを行いました。

参加した方は「ツツジの保護活動に関われるよい機会だった。見事に咲き誇った花を見ながら公園の散歩ができるのを今から楽しみにしている」と話してくれました。



▲薬とは、植物の根本部分から生える若芽のことで、これを放置すると肝心な花の成長を阻害してしまいます。毎年、場所を区切りながら公園内のツツジの手入れを行っています。

1/26 (日) 誇りをかけて疾走

「第61回栃木県都市町対抗駅伝競走大会」が開催され、選手たちは県庁から栃木市総合運動公園陸上競技場の往復コース10区間60.42kmを走り切りました。仲間をたすきをつなぐため、矢板市の選手も力走し、総合で30チーム中24位の成績を収めました。

◀総合結果▶

往路 1時間39分38秒 25位
復路 1時間40分10秒 21位
総合 3時間19分48秒 24位



◀栃木市総合運動公園では、和太鼓が鳴り響くなか復路のスタートが切られました。

2/4 (火) 志と感謝を伝える

泉中学校で、昔の元服にちなんだ「立志を祝う会」が行われました。会場に集まった保護者の前に、満14歳を迎えた中学2年生29人が1人ずつ登壇し、責任の自覚と将来の夢を凛とした姿で発表しました。

その後、立志を迎えた生徒が「これまで育ててくれた親や日頃支えてくれている先生に感謝の気持ちを自分たちなりに伝えたい」と自ら企画した催しでは、ダンスや自作コントが披露され、笑顔に包まれた会場からは歓声が沸き上がりました。



2/6 (木) 全国での活躍を誓う

3月下旬に千葉県白子町で行われる、第19回全国小学生ソフトテニス大会に県代表として出場する矢板小5年の阿美 侑汰さんが市役所を訪れ、市長に出場報告を行いました。この大会は、学年・男女別の各クラス合わせて約1,600人が全国から集まる大きな大会です。

出場にあたり阿美さんは「ソフトテニスを始めて4年、初めて全国出場の切符を手にした。大会まで約2カ月、得意のフォアハンドに磨きをかけ、全国大会で良い成績を残したい」と意気込みを話してくれました。



▲(左から)
・阿美 宏幸さん
・阿美 侑汰さん
・齋藤市長
市ソフトテニス協会
・玉木会長
・関副会長